

地域づくり協議会だより

発行日：平成26年11月1日 発行者：木曾川町連区地域づくり協議会
一宮市木曾川町内割田一の通り27（木曾川町庁舎内） 電話：84-0005
メールアドレス k-chiiki@orihime.ne.jp

**** 部会の活動状況 ****

地域づくり協議会が発足して1年近くなりました。木曾川連区の特徴を生かした地域住民の自主的な活動を目指し各部会が積極的な取り組みを始めています。安心安全部会の防災訓練は、参加者500名余りの盛況でした。次は活気部会とおもいやり部会の番です。そこで、2部会の活動状況と今後の方針について各部会長に伺いました。

活気部会長 山口 昭雄

== 横の連携こそ地域の姿 ==

「地域づくり協議会（地協）」の連区への導入…合併後10年足らず、連区制へのなじみが浅い木曾川町では、新制度の導入に戸惑いが隠せません。「連区」「地協」が二重構造と受け止められる。行政からは「以前とほとんど変わるところはありません」という説明で、導入が促されました。光崎前連区長のリードで導入が決定されましたが、設立総会に至っても「二重性」への疑問は払拭し切れず、役員が説明に窮する場面もありました。

それから半年「これまで通り」の範囲で連区内の諸行事が遂行され、それらを地協の立場で振り返る機会を持つことができるようになって、ようやく諸事業の地協への移行の意味と意義が見えてきました。

「活気部会」で部会内の事業の成果・課題を報告し合う会議を持ったところ、様々な角度からの意見交換によって「現行の事業の整理と連携」という結論が導き出されたのです。これまで連区内とはいえ行政各部署の縦割りの下で各種事業が行われてきたため、それを地域行事として全体的に把握することが難しかった。それを部会という横のつながりで見ると、事業間の連携協力が有利である場合が数多く見えてくる。「縦から横へ」の意識転換が部会員の中で始まりました。

「防犯カメラの役割を人が果たすのが地域」との意見に対して「児童育成、学校、防犯、老人会等でそれぞれに展開されている見守り運動を連携させれば、防犯カメラ以上の効果が期待できる！」との結論に到達する。

商工会長さんとの意見交換の中から「一豊まつりと盆踊り大会を合体させよう！」というダイナミックな発想が飛び出す。

部会内で「横の連携こそ地域の姿」という思いを共有することによって、地協の位置づけ、進むべき方向が見えてきたような気がします。次の課題は3部会の連携・・・動き出した以上、地協の意義を「木曾川流」に育てていけたらと考えています。

おもいやり部会長 岩田 侃次

==地域福祉力をアップのため、今こそ行動を ==

本年度第一回おもいやり部会を9月16日に開催しました。中心議題の見守りネットワーク事業について、活発な意見交換がなされ、瞬く間に終了時刻となりました。次回はさらに、各方面から意見をいただいて、議論を深めていきたいと思っています。

この地域に住んでいて良かった、と思うために、見守りネットワーク事業と災害時要援護者支援制度の意義、目的を理解して、地域福祉力をアップのため、行動を起こしましょう。

木曾川連区見守りネットワーク推進委員会要綱 (平成20年4月1日施行)

目的 第1条

この見守りネットワーク推進委員会は、地域の老人世帯、障害者世帯等、援助が必要としている世帯を近隣住民やボランティアが見守り、支援することにより、地域の福祉問題を早期に発見し、福祉事務所、社会福祉協議会の関係機関と連携し、問題解決のための適切な対応を行い、地域住民の福祉を増進させ、安心して暮らすことができるまちづくりを目指すことを目的とする。

【災害時要援護者支援制度】

災害時要援護者として登録された方の台帳を個別支援者、地域支援者、関係機関等にお渡しし、普段から要援護者の周りにお住まいの皆さんに見守っていただく体制を整え、災害の発生が予想される時には危険が迫っていることの連絡や、一緒に避難してもらうなどの支援を目的としています。

個別支援者、地域支援者はあくまでも善意と地域の助け合いによって支援を行うものであり、災害時に実際に支援ができない場合もありますが、責任を伴うものではありません

**** つぎは、各地区のお国自慢です ****

北黒田東部区長 武原 照明

==JRの東口でやさしさに==



花壇

JR木曾川駅東口の階段を下りたところにきれいに手入れされた小さな花壇があるのをご存知ですか。季節ごとに色とりどりの花が植えられ、今は、ペンダス、日々草、コリウス、アサギリ草、姫ビスカス、その他沢山の種類の花が鮮やかな色彩で、通る人々の目を楽しませてくれます。この花壇は、『私たちの庭の会』の方々がボランティアで手入れされ、毎年開催されている‘一宮市花壇コンクール’の団体部門で、審査員特別賞を受賞しました。

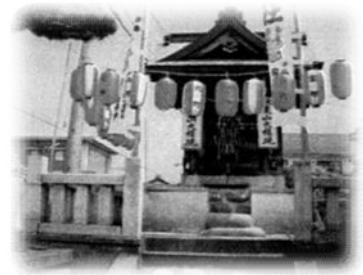
通勤、通学、散歩の途中、少し足を止めてみませんか。

また、この東口のロータリー前に『ベーカリーさん・さん』というパン屋さんがあります。障がいを持った方々が、一般就労を目指して、スタッフと一緒にパン作りや接客をされています。平日の朝6時半より一宮文化のモーニングで、美味しいパンを頂くことができます。

南黒田区長 中村 隆

＝＝秋葉神社の提灯祭り＝＝

五穀豊穣を感謝する秋の祭礼は、木曾川町でも地区単位で執り行われていますが、南黒田地区ではもう一つ、全町内が一堂に集まる祭礼があります。8月の最終日曜日の夕方より執り行われる秋葉神社の祭礼、親しみを込めて提灯祭りと言われています。



提灯祭り

かつて祭り当日は、道路上に多数の提灯が燈され、露天商による夜店も多く、相当に賑わいのある祭りでした。近年は、交通事情等で提灯は境内のみとなりましたが、昔より今日まで行灯に書かれた絵画は、参拝者の楽しみの一つとして多数展示してあります。

この絵は、小さなお子様も喜ぶアニメのマンガから本格的な風景画まであり、薄暗い中行灯を通して浮かび上がる絵は芸術的でもあり、まさに夏の風物詩となっています。

ぜひ、一度ご覧ください。秋葉神社は私たちの生活に欠かせない、火の守り神様です。

年一度、火の神様に感謝し、家内安全・無病息災をお祈りする神事は、夕方6時30分より始まります。

太鼓が打ち鳴らされる合図で、篝火が点火されると厳かに、白山神社の宮司による祈祷が行われます。その後、南黒田区の町内会長が玉串を奉納し、全員で参拝のあとよいよ祭りが始まります。祭りの楽しみの一つに夜店がありますが、近年は木曾川文化スポーツクラブの皆様や、保護者による模擬店も出て、そのためか往時の賑わいが戻ってるかの用です。この長く続く伝統行事は、丸町町内会皆様のご協力で成り立っています。有難うございます。

里小牧区長 日比野 洋一

＝＝歴史と自然の息づく古里＝＝

里小牧は、木曾川の堤防沿いに位置した南北に細長い地域で、現在12の町内会があり、約1500世帯の人たちが在住しています。

里小牧の木曾川河畔に、地元の人なら誰でも知っている“雀のお宿”と呼ばれる場所があります。最近、その名付け親がああ有名な詩人・北原白秋であることが分かり、にわかに関心を抱いています。“雀のお宿”は一宮市大和町生まれの野田素峰氏が設立した病児教育施設の名称です。最初は現在の北方町宝江にありましたが、昭和2年に木曾川町里小牧に移転されました。この施設の支援者には白秋の他に、野口雨情や竹下夢二など当時の文化人が名を連ね、さらにNHKの朝ドラで有名な柳原白蓮の名も見られます。(詳しくは、現在、玉堂記念木曾川図書館で開催中の北原白秋と“雀のお宿”特別展を是非ご覧ください。※11月12日まで) 今後、“雀のお宿”の史実を石碑にすると共に、周辺の緑地公園を地域の憩いの場として利用していけるように環境整備を図っていきたいと考えています。

ところで、皆さんは天然記念物に指定されているイタセンパラをご存じですか。イタセンパラは生息地が限定的で木曾川、淀川、富山の万尾川の3カ所に分布しているといわれ

ています。このイタセンパラが里小牧の湾処（わんど）にも生息しています。そこで、絶滅が危惧されるイタセンパラを保護するために、国交省が生息地周辺の河川整備を始めています。※湾処（わんど）；入り江、川の上よみや水たまりのこと

また、木曾川・中州には11月末から1月の終わりまで、白鳥（オオハクチョウ、コハクチョウ）が、羽根を休める場所があります。120羽を超える白鳥が群舞するさまは壮観で、冬の季節には、その姿を見に多くの人々が訪れる隠れた名所になっています。

里小牧の地は、著名な文化人にも知られた豊かな自然が残る古里です。



白鳥の憩う中州

**** 行催事報告 ****

- H26.9.13(土) 敬老会
- H26.9.14(日) 一豊まつり
- H26.10.2(木) 第1回木曾川地域審議会
- H26.10.5(日) 木曾川町連区防災訓練

11.1~2 木曾川町文化祭・芸能祭

敬老会



木曾川町の皆さん
こんにちは
お元気ですか？

ご機嫌
よう！



あっぱれ～

一豊まつり



防災訓練

木曾川西小学校



AED 訓練

木曾川地域審議会 —「公共交通の利用促進について」—

木曾川町は、駅やバス停がたくさんあり交通の便が大変良いところです。今後ますます高齢化が進み、人口は減少していきますので、市の活性化のため、また健康維持のためにも大いに電車やバスを活用してください。・・・一宮市地域ふれあい課交通政策室